

会議録

会 議 の 名 称	平成23年度高齢者見守りネットワーク協議会
開 催 日 時	平成24年1月13日(金) 午後3時～午後4時25分
開 催 場 所	清須市役所 清洲庁舎 2階202会議室
議 題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 高齢者見守りネットワーク事業の進捗状況について (2) 他市町村の高齢者見守りに関する活動状況について 4 意見交換 5 閉会
会 議 資 料	別添のとおり
公 開 ・ 非 公 開 の 別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	なし
出 席 委 員	松宮会長、小川副会長、太田委員、山内委員、片山委員、佐橋委員、川原崎委員、加藤委員、山田委員、小川委員、大口委員(代理 松本氏)、谷川委員
欠 席 委 員	村瀬委員、松野委員、近藤委員、藤嶋委員
出席者(社会福祉協議会)	浅野事務局長、柴垣、吉田、佐々木
事 務 局	大鐘健康福祉部部長 (高齢福祉課)福田高齢福祉課長、山田副主幹、伊藤係長、寺社下係長、 吉田主任主査、佐古主任主査 (社会福祉課)浅井主任主査 (防災行政課)名倉主幹
会 議 の 経 過	1 委嘱状伝達 2 清須市高齢者見守りネットワーク協議会委員紹介 3 清須市高齢者見守りネットワーク協議会設置要綱について 4 会長・副会長の選出について 会長—事務局一任の意見あり 松宮委員に依頼 一同拍手により決定 副会長—松宮会長の指名で小川委員に決定 6 議事 (1) 高齢者見守りネットワーク事業の実施について ・高齢者の実態と事業について(資料2)伊藤より説明 ・普及啓発、他部門との連携について(資料3)寺社下より説明 ・各地区の活動状況について 横町(資料4-1)片山委員より説明 大和(資料4-2)川原崎委員より説明 田中町(資料4-3)加藤委員より説明

委員長	<p>モデル地区である横町地区では、最初のアンケート時は遠慮をしていた方が次第に続ける中で参加するようになって根付いてきた、との発表がありました。大和地区ではいままで続けてきた事に加えて新しい事を、今年度来年度と集会所で実施する多世代交流に向けて活動をしている、田中町では何もなかったところからネットワークを立ち上げ活動を展開している、それぞれ印象に残るお話でした。</p>
谷川委員	<p>熱心に取り組んでいる活動報告ありがとうございました。横町に質問です。思いやりネットワークの会員は増えているのでしょうか。また今回ご報告がなかったのですが、以前お聞きした時に、門や玄関にラベルを貼ってというのがあったのですがどうなっているのでしょうか。3地区の方に質問ですがサロンの場所はどこでやっていますか。</p>
片山委員	<p>横町の会員の人数ですが、現在は126名です。発足当時は62名位で会員の数は増えていますがサロンの参加人数はあまり増えていません。最初は10名位からで現在は35名位です。場所が今にも崩れてきそうな町内の古い集会所で35名入るのが一杯な状況です。「元気ですメッセージ」については126名の会員の全ての玄関先に貼ってあります。(現物を持参されており、皆さんに提示) これにマグネットを貼ります。マグネットの色が5種類あり、元気な場合は「緑」「青」の2種類を偶数日と奇数日に分けているが同じ色のままの人が多いです。「黄」は相談事があるから寄って欲しい、「赤」は緊急で誰か来て欲しい、助けて欲しい、「白」は不在という意味でできるだけ使い分けるようにと計画はしてあるのですが、「黄」「赤」はほとんどありません。「黄」は資源ごみの収集の際に出します。</p>
小川委員	<p>ラベルが貼ってあることで一人暮らし・高齢者世帯などデメリットになる場合があるのではないのでしょうか。</p>
片山委員	<p>その通りで、一人暮らし・高齢者世帯と特定される恐れがありますので、会員全員の126名が貼るようにしています。その中で高齢者かどうかは幹事だけがわかるだけで、他にわからないようにしています。126名の中で実際に見守りが必要なのは26名位です。</p>
川原崎委員	<p>大和地区ではいきいきサロンという名目ではやってはいません。集会所でできる限り集まっていただけのように、バリアフリーとか集まれるような形ものを作っていこうと考えている段階です。</p>
加藤委員	<p>田中町は寿会が主体でサロン活動をされています。これは公民館で行われています。2階建てで畳の部屋で60名位は入れると思います。サロン活動ではカラオケなど色々やりますが、講演会ということで、西枇杷島警察署による交通安全に関する話や高齢福祉課からの介護保険の話など、2ヶ月に1回位、出来る限り町内の方が集まっていただけのような部分を作っているのが現在の状況です。</p>
(1) ブロック社協活動について	<p>モデルブロックの取組(資料5)柴垣氏より説明</p>
	<p>今後の予定ですが、12月の中旬にモデルブロックを受けていない31ブロックに対して平成24年度以降の意向調査を送り3月中旬に報告していただき、あらたに指定をさせていただく予定です。1月25日に愛知県内の地区社協の先進地である安城市に行き勉強会をします。3月下旬に活動発表会をパネルディスカッション形式で開催予定です。</p>

太田委員	私も昨年町内会長をやらせてもらいましたが何をやるにしても参加される方が少ないのですが、どこの町内でも参加される人数が少ない状況のようです。24年度の寿会の会員募集を1月から行っていましたが、回覧板を回しましたがまだ誰も入会する人がいない状況です。近所でいうと、昔は絆があった、つまり人情があり、隣とのつきあいは親密にしていたのですが今は個人個人の家庭で家の中に閉じこもっている人が多い、なかなか開いていくのは難しい状況です。役員を1年交代で実施していますが、モデル地区の方々は大変だと思います。
山内委員	モデル地区の発表を聞き、各地区の特色を活かして色々な事に取り組まれたおり素晴らしいなと思いました。その中で女性の会もこの中に混じり一緒に取り組むことができないのかと考えていました。自分達のできる事と他の団体と力を合わせてできる方向性を考えてネットワークづくりができるといいと感じています。ただ具体的にどのようなしたらよいか思いつかないので、私達も声かけをしますが皆様からも女性の会へ呼びかけがあると進むのではないかと思います。また機会がありましたらお世話になりたいのでよろしくをお願いします。
佐橋委員	2つ質問があります。1つ目として平成22年からブロック化の話があり平成24年度より本格的に進みますがいくつかのブロックに編成されるのでしょうか。今まで沢山字のあった住民の方に対してブロック化が周知徹底されているのでしょうか。私の住んでいる横町は、3つの字一緒になり一つになることはわかっていますが、知らない人が沢山いるようです。行政指導で徹底させていかないとブロック化は完全に進まないし稼働しないと思います。もう一点、見守りネットワークは横町・大和・田中町の3地区は個々の旧字で活動していますが、平成24年度の本格的なブロック化となり、社協は既にブロックで実施していますが、3地区についてはブロック化されるのかお聞きしたいです。
名倉	ブロックについては行政区38で24年度稼働とさせていただきます。自主防災会につきましては平成24年1月14日に清洲市民センターでお話をいたします。
福田	ネットワークのブロック化について、現在は3地区の旧町内会でモデル地区をお願いしております。そもそも孤立死を予防したいという事で、平成21年からモデル事業を開始しております。今年で3年目となりますが、この3年間でブロック社協活動とか社会福祉課の災害時等の要援護者への対応等の新しい展開が起きてきました。それに伴い高齢福祉課の方も主体的なものはブロックに移行していきだろーと思います。こちらとしましては従来通り地域の高齢者としての見守り体制という形で支援をしていきたいと考えております。ただ住民の方も色々疑問に思ってみえる方もあり社会福祉協議会のモデルブロックと高齢福祉課の高齢者見守りネットワークとどちらが主体で行っているのかご質問もあります。将来的には社協のブロックに統合されていくのではないかと思います。高齢福祉課としては側面支援はしっかりとしていきたいと思っています。
山田委員	民生委員をやらせていただき13年目になります。この見守りネットワークができたお陰ですごく安心して皆さんのお世話ができるようになりました。いまままで私が引き受けた時は、全部民生委員1人でやっておりました。なかなか

か皆さんの所に行けなかったと思いますが、ここ13年目でいたいどこに誰が住んでみえるのか全部把握しました。こういう見守り隊を作っていただき本当に感謝しております。

松本委員

消防署にあります。高齢者の事業については緊急通報システムの受信ということでセコム・安全センターの方から北名古屋市・清須市・豊山町の全ての高齢者の独居老人について警備会社から内容を受信して救急車や消防自動車を発車しております。災害時要援護者台帳もお預かりしておりますが、なかなか全体を把握するのが難しく大変です。このように見守り隊の方などの地域の方が、こういう援護者の方いるということ把握をされて110番・119番をされるとカクソウが速やかにできますのでこういうことはいい事だと思います。

委員長

山田様や消防署の方のお話いただいたように、見守りネットワークができることで情報が共有されるとか、意識的に動き出す部分ができそれが他の機関とつながり実質的に非常によく動くようになることが考えられます。

副委員長

社会福祉協議会がこの場所にいるのも変だと思いますが、社会福祉協議会は完全に独立している福祉団体ということですので市には遠慮なく色々な事ができるのですが、実際は市の方と連絡・調整しながら、市のほうで行っている仕事をいただいたり、いまのブロック社協という名前をいただいたりしているのが現状です。この事務局から説明がありましたようにこの見守りネットワークが終わったら社協というそれを受け継いでということではありませんので、そのところだけは押さえをしておきたいと思います。それで非常に混乱をしています。名倉さんから説明がありましたが、地域に戻っていくと大和地区さんは既にブロックとしての仕事ができるようにしておみえですがブロックそのものを理解していなくてブロック社協という言葉で皆さんに説明をすると、市の行っているブロックとどこが違うのかとなります。市は107の町内会を合理化して38のブロックにしてみえます。社会福祉の地域福祉といえば本当は規模が小さいほうがいいのです。地域に対して手を差し伸べていくわけで、今のように1ブロック平均700~800世帯になり、社会福祉協議会として地域の絆を作る・横の連携を深めようと動き出しました。合併をして社協自身が地域と結びつくかといえば結びつきはありませんでした。ただこちらから社協の会員になって下さい、会費を納めて下さい、と広報やお知らせを出したりしてきました。現在は地域のほうへ、皆様がお出しいただいた赤い羽根共同募金や会員のお金を預かり、その3割を地域の方へお渡しします。その地域とは現在は町内会ですが、来年からはブロックへいきます。そのブロックの中で十分に連絡をとっていただきながら自分の町内が不安定なのに隣の町内と仲良くしながら、高齢福祉課がすすめている見守りネットワークとか、そこまでいかずサロン活動とか、この高齢福祉課がネットワーク終わりましたと言われると地域での活動に声をかける機関がなくなります。その後を社協が範囲は大きいですが地域の結びつきができるようにと援助ができるようにブロック長さんに進めているところです。地域だ、町内会だ、ブロックだ、ブロック社協だとしばらく混乱があると思いますが頭を切り替え市民の皆様にもう一度、市の方からきちんとブロックについて説明していただかないと、役員をやった人はわかりますが一般の人はわからないままになってしまいます。今日せっかく発表していただいた3つの町内会

がきちんとやっているのに、ただ町内会でやっているだけでブロックとしては何もないということになってしまいます。このスタートは町内会として始まっているのでいいと思いますが、社協の願いとしては横町さん、田中町さんはやってみえることを一緒になったブロックとして和を広げて隣の町内会とうまく連絡をとられてやっていただけたらいいなと思います。社協は市の歩みにしたがってですので、皆さんの一つ一つの所へブロックでやろうと考えられた所へ分らない事は説明に出かけます。ブロックの方へ活動の助成金をお渡しします。ブロックを中心にやっといこうと進めておりますのでご理解をいただきたいと思います。高齢化率は20%を超えました。15年先には30%に近くなるということで、4人に1人は高齢者になっていくということで、じっと見ているのではなく、増えていくことに対して皆さんが安心して住んでいてよかった町だと言われるように社会福祉協議会も努力しますのでご協力をお願いします。

委員長

小川様のお話で、まとめと課題と展望も含めて発表していただきました。二つ重要と思われるのはこの3年間、各モデル地区でできたネットワークを活かし広げていくという形、町内会で築きあげてきた特色のある活動が母体だということ、それが今後来年以降の活動の基盤として考えていくべきだということを確認しておきたいと思います。二つ目は、ここにおられる方でもブロックのあり方というのが把握しきれないという意見もあり、24年度以降、ブロック・ブロック社協のあり方についても一度わかりやすいような広報を、それを周知されるようなことがこちらの委員会としての要望となります。事務局としてご検討をしていただければと思います。今後の枠組み・見通しが立てば今後のあり方を検討しやすくなり進めやすくなります。まったくそういうものがない状況でブロックだと言われても混乱したり、今までのことを否定されるように受け取られる事もありますので是非ご検討いただければと思います。これで本日の会議を終了させていただきます。貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今後について事務局より説明をお願い致します。

福田課長

この事業の推進につきましては皆様がつちかってきたノウハウを活かしていただきまして今後も地域から発信をしていただきましてネットワークの拡大を引き続きご協力をお願いしたいと思います。当然行政としてもご協力をさせていただきますのでお願いします。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためにここに署名する。

署名委員

署名 太田 廣史 ㊞

署名 山内 文江 ㊞

会議結果	会議の経過に示したとおり
問合せ先	健康福祉部 高齢福祉課 052-400-2911 内線4331

